

牧野(淀川上流)探鳥会 2014年6月度

2014. 6. 1(第1日曜日、祝日) 9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)

南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、堤 潤、斎藤 健、西脇 淳浩

淀川河川敷は夏鳥・留鳥の繁殖・子育て期。ウグイスやキジ、そしてオオヨシキリのさえずりを聞きながら、子育てを早く終え若鳥と一緒に林を巡回しているエナガや、シジュウカラを観察したいと思っています。そして、一番見たい鳥はホトトギス、以前牧野にカッコウが多かったと聞きますが、昨今はホトトギスが増えています。河川敷の木が大きくなって草はらに木が多いことから、ウグイスが増え、ホトトギスの好む環境に変化したようです。

1. 先月(14年5月)の探鳥会から

快晴の探鳥日和、河川敷に入るとサイクリング車の通行と、ウグイスのさえずりに切れ間がなかった。冬鳥居残り組はアオジ1羽、マガモ2羽、夏鳥通過組はコムドリ(4羽)、シギ・チはケリ・コチドリ・チュウシャクシギ(5羽)・イソシギ、夏鳥定住組はオオヨシキリ(15羽)、セッカなどで、40種が観察できた。

(追記)数日前から枚方大橋近くの河川公園のチュウシャクシギの群に**コシャクシギ**が1羽いるとの情報があり、探鳥会終了後有志が足を伸ばしました。対岸高槻市側の中洲にチュウシャクシギはいたものの、コシャクシギは確認できなかった。幸い巢立ち直後の**ケリ**のヒナが観察できました。



ケリの親子 140504 堤 潤氏



ホトトギス 120622 斉藤 博氏

2. 牧野探鳥会の野鳥(ホトトギス)

日本で繁殖するカッコウ科の鳥は4種、ホトトギス・カッコウ・ツツドリ・ジュウイチで、いずれも**鳴き声から種名**がつけられています。

万葉集で良くよく歌われている鳥は**ほととぎす153首**、2位**かり65首**、3位**うぐひす51首**で、**かっこうは1首も無い**ようです。

カッコウ科の4種は、他の小鳥の巣に卵を産み、その鳥に子育てを任せる**托卵**という不思議な繁殖戦略をとっています。托卵相手の小鳥(**宿主**)は、カッコウがモズ・ホオジロ・オオヨシキリなどいろいろバラエティに富んでいるのに対し、ホトトギスはほとんどウグイスのようです。カッコウ科の鳥と宿主は長い年月のせめぎあいでも成り立っているのですが、信州では数10年前からカッコウがオナガに托卵し始めたとのこと、当初無防備だったオナガがだんだん対抗戦略をとり始めたことも報告されています。

カッコウ科の鳥は托卵をすることから**左団扇(うちわ)で宿主に育雛**

を任せているのでなく、相手によって卵の色・模様を変えるなど、それなりに必死に生活しています。

ホトトギスの産卵～ヒナ誕生までの工程は

- ①宿主ウグイスの巣を見つける
- ②ウグイスのいない瞬間にウグイスの巣に産卵する(産卵時間の調整が必要)
- ③卵を生んだあとウグイスの卵を1個巢外に放り出す
- ④ホトトギスのヒナがウグイスより先に孵化する。
- ⑤ヒナは孵化直前のウグイスの卵を巢外に放り出す。
- ⑥一人っ子として親ウグイスが持ってくる餌を独り占めにする

こうしてウグイスに育てられたホトトギス、養父母のウグイスに教えてもらったのか、遺伝子に組み込まれているのか、自分で餌を取るようになり、越冬地へ往復し、翌年に戻るとまたウグイスを巣を探し産卵することを繰り返しています。

3. 自転車対策+トイレ問題

牧野探鳥会で最も気をつけていただきたいのは「**自転車と衝突しない**」、交通事故からの自己防衛です。自転車のスピードが早いので、万一衝突事故で怪我をするのはバードウォッチャー側になります。探鳥会で道路を横切るときは、**小学一年生の気持ちになり「前後左右」**の安全を確かめて横断してください。また、コースに**簡易トイレが2ヶ所ある**ものの、正式なトイレは終了時の鳥合わせ個所のみです。この点もご留意ください。

4. **次回6月度は7月6日(第1日曜日)** 清掃探鳥会なので、ゴミ袋持参で参加願います。午前中で終了にします。

